令和２年３月１日

らいかい恵子 議員便り 216号

合志市議会議員　来海恵子　合志市幾久富1642－38　☎ 090-9655-1143

新型コロナウイルスが、遂に熊本で確認されました。自分でできる予防（手洗い・マスク・なるべく人混みや懇親会などをさける）をして、周りに迷惑をかけないようにしたいですね。出好きの来海ですが発症すると3月議会中でもあり、また、みなさまに多大な迷惑がかかりますので外出を必要最低限に控えます。来海は、毎月一人で議員だよりを8,000枚配っています。

最後のラブレター

遂に永遠の別れが

母澤田律子 86 歳は、2月12日17時に私に看取られながら亡くなりました。1月20日合志第一病院に入院し、毎日食事を食べさせに通い口喧嘩もしました。2月に入ると全く食べ物を受け付けなくなり、点滴と酸素吸入でした。最後の12日間は私や弟夫婦と孫たちが交代で付き添い、母も寂しくなかったと思います。父が交通事故で中学3年生の6月に亡くなった時に母が死んだらどうしようと毎晩寝息を聞いて安心したのを思い出しながら、夜中「お母さん、私を置いていかんで！」と手を握りしめると握り返してくれました。延命治療はしないと決めていたので、酸素吸入や点滴も「してよろしいですか？」と了解を取ってくれました。何も食べなくても口の中は汚れるので口腔ケアもしてくれ、院長先生も「澤田さん！」と声をかけてくださりその瞬間は目が開きました。最後は穏やかな顔で、すっと息を引き取りました。何度見ても息をしているようで、「お母さん、お母さん返事して！」と呼んでも返事がなく、最後まで「母は死なない！」と甘えてばかりでした。看護師さんがファンデーションを塗ってくださり、お気に入りのピンクのパジャマに着替えさせるととても可愛くて、その格好で天国に旅たちました。母は何も悔いはなく、

素晴らしい環境と、とても親切に接してくださった合志第一病院のみなさん、また、かかりつけ医の竹長先生、主治医の熊大病院徳永先生、「行く所があって幸せ！」と楽しみにしていたツクイデイサービス、研修の度にショートステイでお世話になった紀水ナーシングホーム、細やかに相談に乗ってくれた社会福祉協議会のケアマネジャー土田さんに、心から感謝しています。ありがとうございました♡

最初で最後の喪主

12日に亡くなったから14日の葬儀まで3日間、普段会えない家族としっかり向き合い絆を強めることができたのも母のおかげです。見てください、やりきった清々しい笑顔を♡四国の生まれで親戚はおらず私と八女の弟夫婦に孫たち8人なので家族葬にしようとも考えましたが、たくさんの方々にご会葬いただき感謝しています。母は、私が一人になるので安心したと思います。52年前父が死んだ時も雨、母が亡くなった日と葬儀も雨で父が迎えに来たのだと思います。荼毘に付して火葬場から出ると、ぱぁ～と晴れ天国で父と喜んでいるようでした。(笑)

遺影も2年前に伊勢神宮に参拝した写真、祭壇の花も白を基調にピンクを少し混ぜて清楚に、喪主挨拶も「お母さん、生んでくれてありがとうございました！」と決めていました。思った通りの葬儀ができ、尚且つ、和やかに天国に送れ家族一同喜んでいます。私も、最初で最後の喪主を無事に務めることができてホッとしてます。

喜びに満ちた葬儀ができたのも、母が生前お世話になった杉並台自治会、老人会「若草会」、ぽっかぽか杉並台、7班のみなさん、市議会や市役所等々の励ましと、玉泉院さんのおかげです。ありがとうございました♡ご恩返しは、身を粉にして合志市を良くするために頑張ります。

母の合志市で生きた証！

平成14年3月議員に初当選して一人暮らしで風評被害が起きたとき、「力にはなれないけど、

一人で言われるならお母さんが盾になってあげる！」と四国からカローラを運転して引っ越してきてくれました。四国でちぎり絵を教えていたので、毎年干支の色紙を10月から作り始め年末に家族や知人にプレゼントしていました。また、玉東町の画廊喫茶で個展を開いたのも懐かしい思い出です。

噴煙吟社創立50周年記念川柳大会

熊本県賞に沢田さん（愛媛県）

噴煙吟社創立50周年川柳大会

六日、阿蘇郡一の宮町の立岡蘇青年の家でシンポジウム「アジア連携ツーリズム」を行い、パネリストたちは

川柳噴煙吟社（吉岡龍城会長）創立五十周年記念川柳大会が十六日、熊本市桜町の市民会館であり、全国から愛好家二百十五人（事前投句三百八十人）が参加した。総合一位の熊本県賞には沢田律子さん（愛媛県）が選ばれた。

兼題は「健やか」「記念」など七題。特別選題は「本音」。参加者は締め切り時間を気にしながら句作。審査の後、入選句が読み上げられると、ユーモアあふれる作品に笑いが起こった。

功労者表彰や講演もあった川柳噴煙吟社創立50周年記念川柳大会＝16日、熊本市民会館小ホール

功労者表彰や「面識者・桑田東美さんの講話もあった。同吟社は昭和二十五年に創立。会員は県内外に約七百人で、全国でも有数の規模。海外会員も三十人いる。月刊機関誌「川柳ふんえん」は六百号を超えた。

「川柳は鉛筆１本あったら、日本中何処でも勝負できる！」と全国の川柳大会に行っていました。熊本では「噴煙吟社」に所属し、また合志市川柳会を立ち上げた一人です。熊本県賞を元潮谷知事からいただいたのが嬉しかったのか、遺品を整理していたら熊日の切り抜きが出てきました。全く川柳に関心がなかった私は、どんな句だか覚えておらず親不孝を恥じています。認知症になってからは、句会には出ませんでしたがベッドで会報誌を読んでました。

母とレッドとお花見に！

母の認知症が進みだし、自宅に引きこもるので犬を飼いました。それが、愛犬レッドです。最初「犬はすかん！」言ってたのが、「しかたなかね！」と毎日飯高山公園にレッドと散歩に行くようになりました。冬の寒い朝早く出かけるので、「もう少し、暖かくなって出かけたら？」「友だちが一杯いるお前には分からんと。お母さんが、どんなに飯高山の友だちに会うのが楽しみか！！」円形広場に母はニコニコ座り、お友だちがレッドを散歩させてくれ、帰り道疲れたら近所の玄関先に座っていたそうです。議員便りを配っていると、知らない方から「お母さんはお元気ですか？飯高山でお会いしてました。」と今でも声をかけてくださいます。母が亡くなって、レッドと飯高山まで散歩しました。知らない所で娘はいつ帰るともわからず、肝臓癌だけでなく記憶がなくなってきて不安だったろうと涙がこぼれました。だからこそ、散歩でお友だちと会えるのが何よりも楽しみだったと思います。レッドも母を入院させると同時に、具合が悪くなり一日遅れで病院に連れて行きました。犬も分かるのか、ションボリしています。生前お世話になったお友だちのみなさま、ありがとうございました♡また、議員だよりを読んで、「お母さんの体調はいかがですか？」と励ましてくださったみなさま、ありがとうございました♡母は、たくさんの方に出会えて幸せだったと父に天国で自慢してると思います。ありがとうございました♡

「お母さん、生んでくれて ありがとうございました！」

故 澤田 律子 儀（八十六歳）

母 澤田 律子 は、令和二年二月十二日十七時、八十六歳にて永眠いたしました。奇しくも父が亡くなった時とも雨で、迷子にならないよう迎えに来てくれたのかと弟と話しました。

母が三十四歳の時に父が交通事故で亡くなり、それからは祖母と二人で私と弟を愛情一杯に育ててくれました。家は決して裕福ではありませんでしたが、二人とも大学に進学させてくれました。私は一度も「ダメ！」と言われたことがありません。何でもやらせてくれました。母も小学生の時に父親が戦死し、祖母に育てられたそうです。三人姉妹の真ん中に生まれた母はとても活発で、テニスをしている写真を見て私は憧れました。女性ドライバーのさきがけ、文章が上手く度胸があり、忙しいのにずっとPTA役員をして私たちをのびのび育ててくれました。私も、子どもたちが学校でのびのびできるように、幼稚園に通わせていた頃から働きながらPTA役員を務めてまいりました。それが、当たり前と育ったのです。また、大腸癌と闘っていた祖母のことも、最後の一年、私は母と自宅で介護しました。だからこそ、自宅で看取るのが当たり前だったのです。しかし、ついつい忙しさにかまけて「なんしよっと急がんね！」とせかしてしまった馬鹿娘です。

母は、ちぎり絵で個展を開き、県知事賞を川柳の大会で受賞したこともありました。母は私の支えです。憧れで目標です。それは、亡くなったいまも変わりません。

それどころか、気持ちはますます強まっています。どんなにつらい時も、医師や看護婦さんに最後まで「ありがとう！」と伝えておりました。意識がなくても、呼びかけるとぱっと目を見開くお茶目なところもありました。最後は穏やかな顔で、すっと息が止まりました。八十六歳の人生をやり抜きました！あっぱれです。

お母さん、生んでくれてありがとうございました！

あなたの娘で、良かったです。

今度は私が、子どもや弟たちを守ります。

天国からお父さんと見守ってください。

最後になりましたが、生前ひとかたならぬご厚情を賜りました皆様へ、深く感謝申し上げます。

本日はご多用中お集まりいただき、誠にありがとうございました。

喪主 来海 恵子

外親族一同